

調査・設計等分野における低入札防止対策について(案)

直轄事業の調査・設計業務における
 主な品質確保対策

・総合評価落札方式の導入・拡大（H20.5～）

※ H21年度は約2,590件実施（H21上半期まで、H20比6.8倍）

 ・適正な業務実施体制の確認・強化
 （低入札による品質低下防止対策）

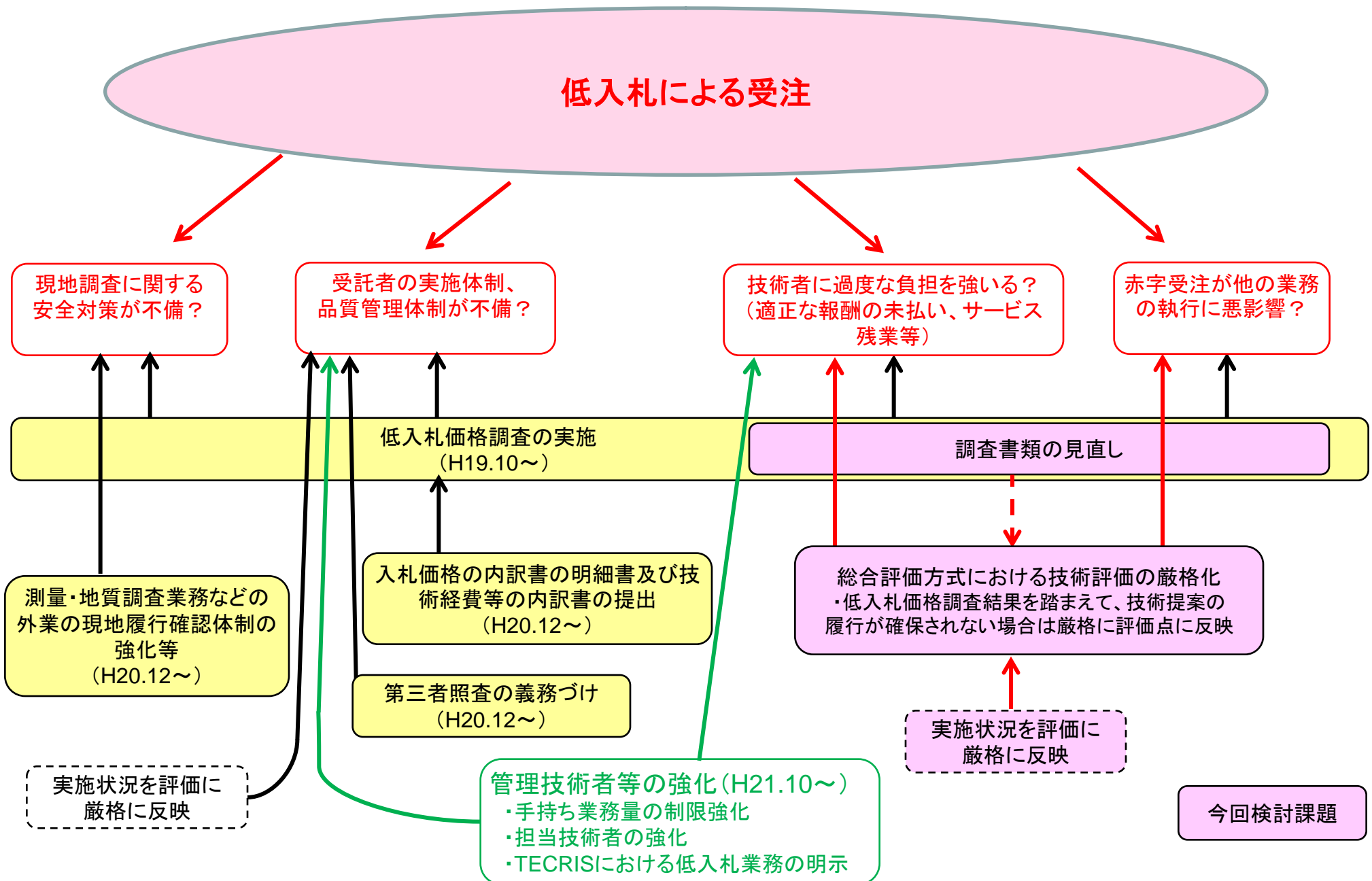
- 低入札価格調査の実施（H19.10～）、書類提出の強化（H20.12～）、**調査の強化及び技術評価の厳格化（今回検討課題）**
- 第三者による成果品照査の義務付け（H20.12～）
- 外業における現地履行確認体制の強化（H20.12～）
- 管理技術者の手持ち業務量の制限（H21.10～）[手持ち業務量を4億円かつ10件以下 → 2億円かつ5件以下]

・発注者側の成果品チェック体制の強化

- 第三者による成果品の照査（H11.4～）

・適正な競争環境の確保

低入札防止対策の概要(案)



新しい品質確保対策(案)

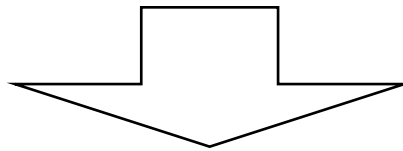
低入札業務の課題

低入札業務は品質低下を招く

- 落札率の低い業務ほど、業務成績は低い。
- 特に低入札業務では、業務成績が高得点の割合が低い。
⇒ 低入札業務では、技術提案した内容について履行されていない恐れがある。

低入札業務は赤字受注を招く

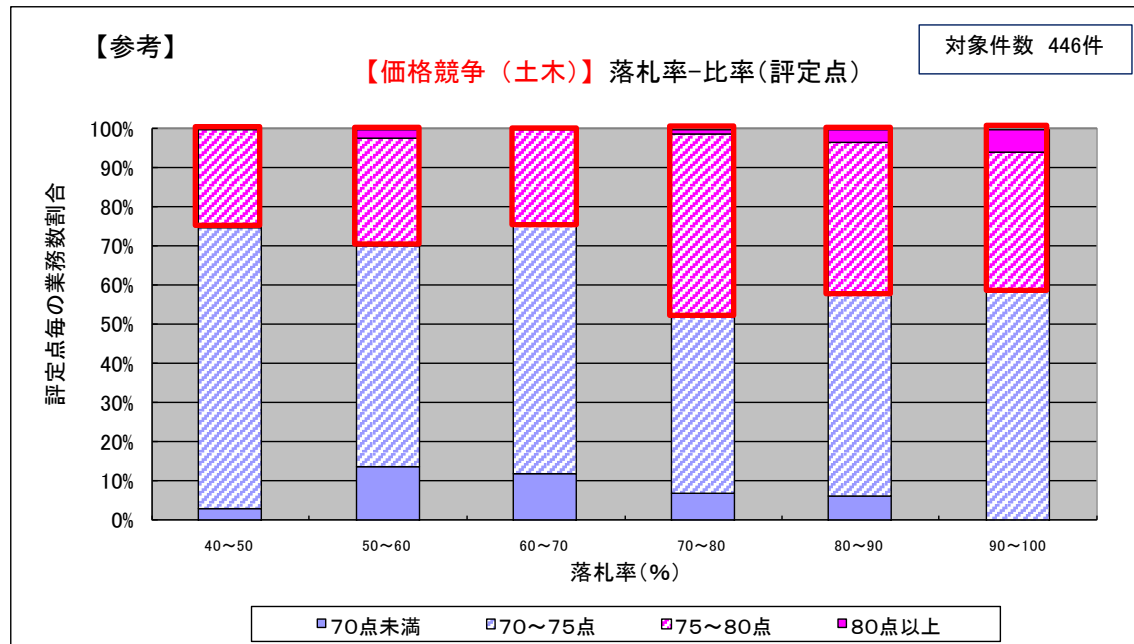
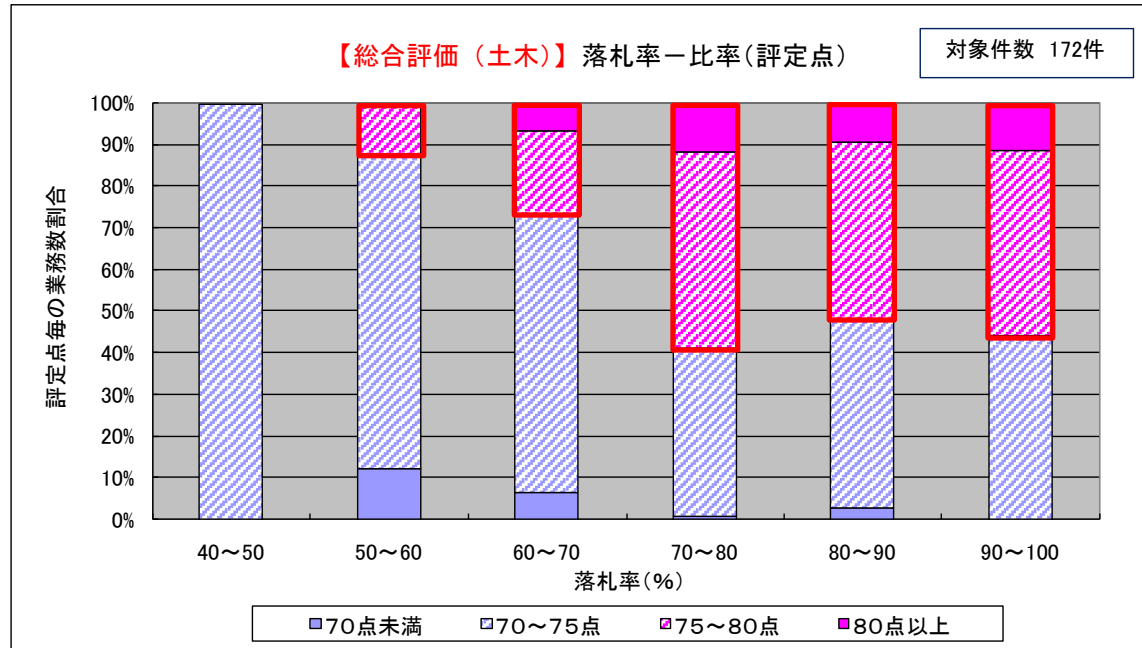
- 低入札業務でも、非低入札業務と比較して利益率に大きな変化はない。



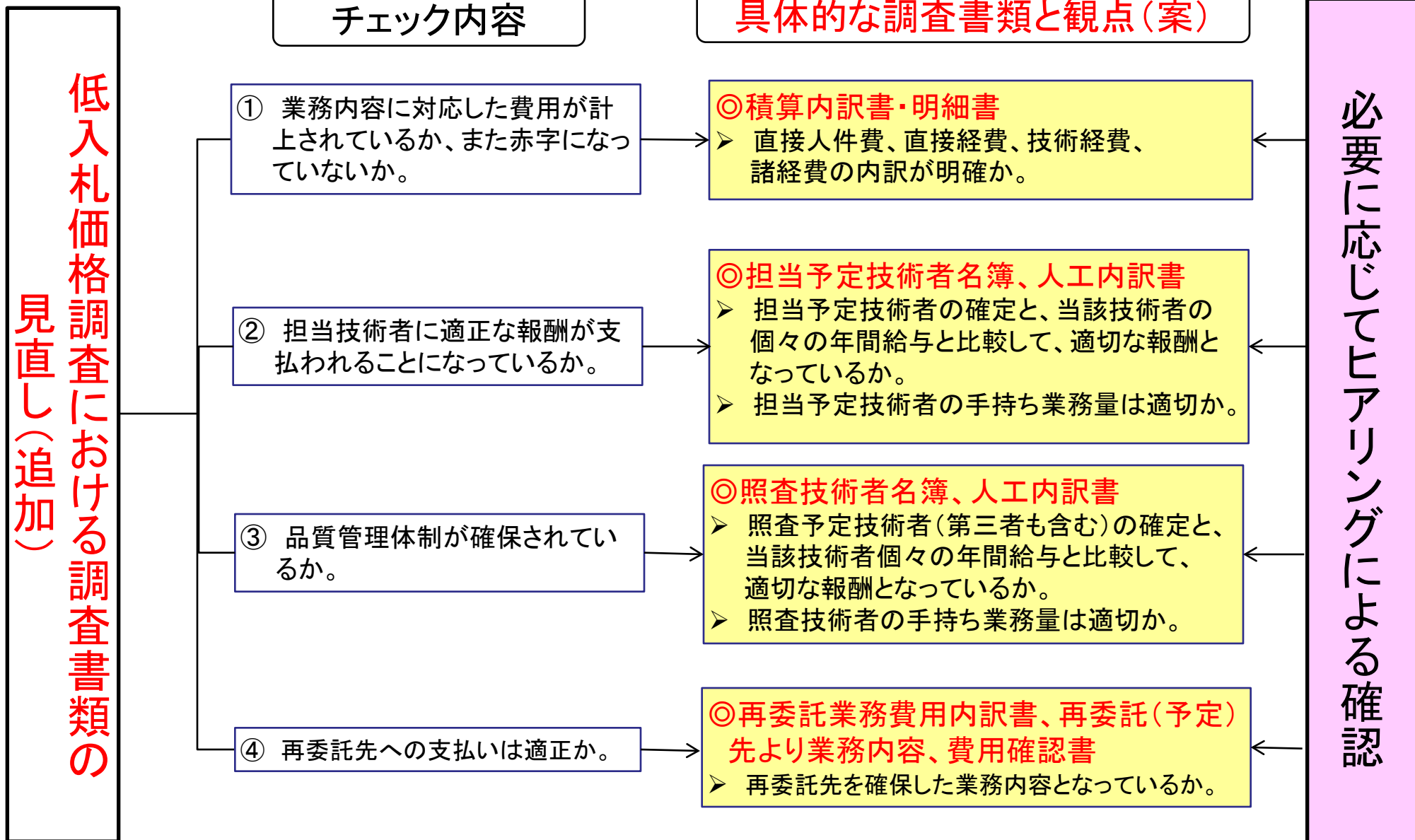
新しい品質確保対策(案)

- (1) 低入札価格調査基準価格を下回った者に対して、低入札価格調査を強化するとともに、技術評価点の中で「**技術提案の確実な履行の確保**」を評価し、厳格に反映。
- (2) 更に実態を精査した上で**低入札価格調査基準価格の見直し**を検討

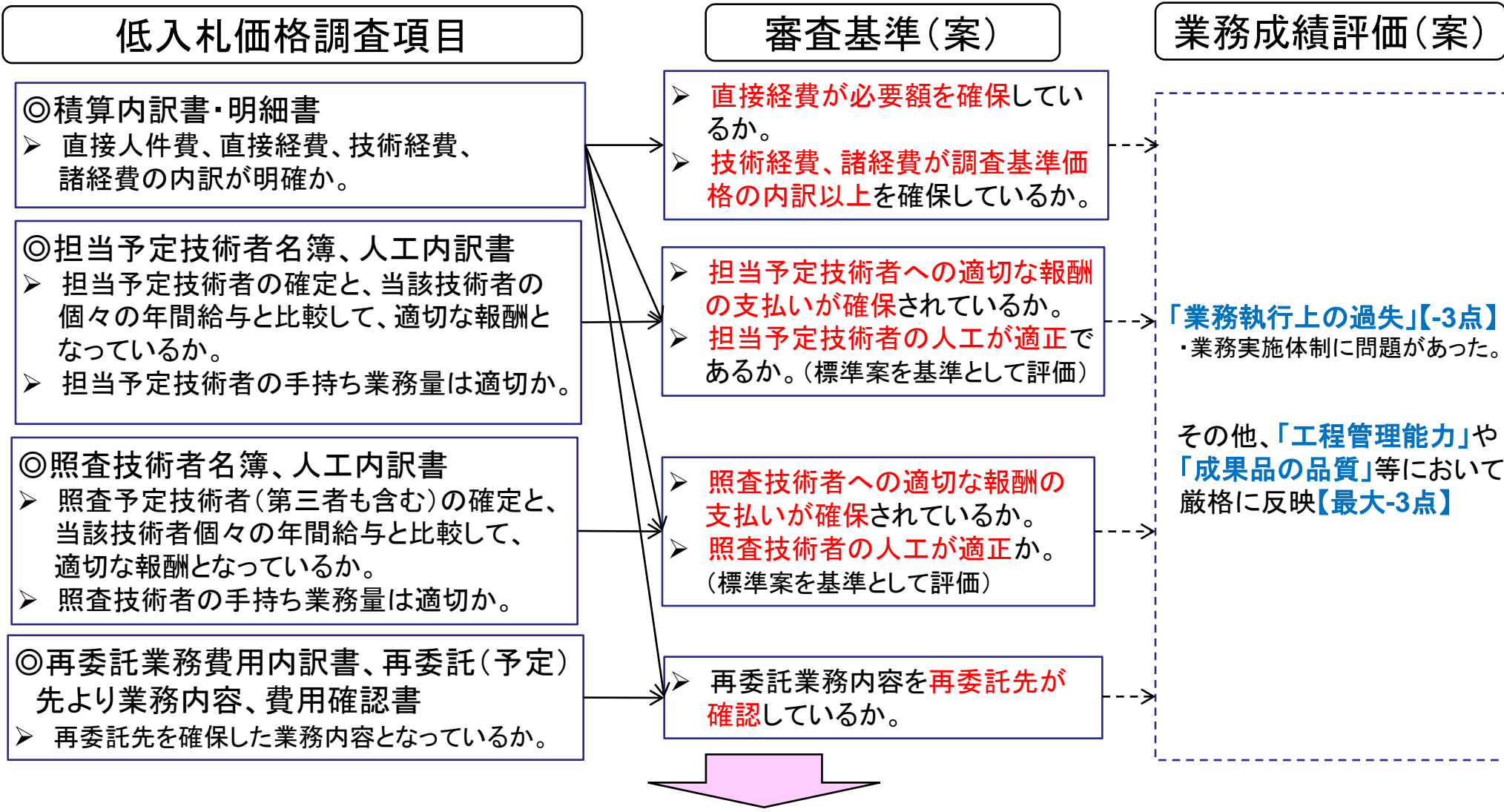
落札率帯別評定点比率分析



低入札価格調査の厳格化(案)



「技術提案の確実な履行の確保」の再評価について(案)



【評価方法】

- 技術評価点の内訳として「技術提案の確実な履行の確保」を評価項目に追加して、厳格に評価する。
- 評価のウエイト、評価方法等については、平成20年度結果をシミュレーション等を行った上で検討する。